

## [ 普及事項 ]

新技術名：リンゴ、オウトウ新殺虫剤の実用化（昭和58～平成9年）

研究機関名 果樹試験場環境部虫害担当、鹿角分場

担 当 者 大隅専一・舟山 健、他1名

[ 要約 ] オサダン水和剤25 1,000倍、コロマイト乳剤 1,000倍はリンゴの殺ダニ剤として、テルスターフロアブル 4,000倍はオウトウの殺ダニ剤として実用性が高い。

## [ ねらい ]

新しく開発された殺虫剤について、リンゴ、オウトウの主要害虫に対する防除効果を検討し、実用性の高い薬剤を県防除基準に採用して、リンゴ、オウトウ害虫防除体系の改善を図る。

## [ 技術の内容・特徴 ]

### 1. 材料及び方法

ハダニ類の発生期に散布し、これまで用いられている殺ダニ剤と防除効果、葉害などについて比較検討した。

### 2. 結果

- 1) オサダン水和剤25 1,000倍は有機スズ系殺ダニ剤で、ナミハダニに対しては抑制期間は3週間程度と残効性に欠けるが、薬剤抵抗性が発達した殺ダニ剤よりは効果が高い。リンゴハダニ、リンゴサビダニに対しては効果が高い。使用時期は要防除密度（1葉平均寄生虫数3.0頭）に達した時とする。
- 2) コロマイト乳剤1,000倍は環境に優しい天然物由来の殺ダニ剤で、ナミハダニに対しては速効性でハダニのいずれのステージにも高い活性を示す。残効性に欠け、抑制期間は3週間程度である。使用時期は要防除密度（1葉平均寄生虫数3.0頭）に達した時とする。
- 3) テルスターフロアブル4,000倍は合成ピレスロイド系殺ダニ剤で、オウトウでのナミハダニに対する抑制期間は2～3週間程度であるが、薬剤抵抗性が発達した殺ダニ剤よりは効果が高い。果面の汚染が少ない。使用時期は要防除密度（1葉平均寄生虫数3.0頭）に達した時とする。

## [ 普及対象範囲 ]

全県（リンゴ、オウトウ）

## [ 普及・参考上の留意事項 ]

1. オサダン水和剤25、コロマイト乳剤、テルスターフロアブルはナミハダニに対しての抑制期間が短いため、散布後の密度推移に注意する。
2. コロマイト乳剤は殺菌剤との混用によりナシで葉害が発生する場合がありますので、ナシには散布しないよう注意する。

[ 具体的なデータ等 ]

第1表 オサダン水和剤のナミハダニに対する防除効果 (秋田果試、昭和58年)

供試薬剤	希釈倍数	1葉平均寄生数					薬害
		散布前	11日後	21日後	35日後	41日後	
オサダンWP	1000	5.2	3.7	7.8	26.0	56.4	—
プリクトランWP	1000	5.8	0.1	0.1	0.2	1.0	—

散布月日：8/12 調査月日：8/12、8/23、9/2、9/16、9/22

第2表 コロマイト乳剤のリンゴハダニに対する防除効果 (秋田果試、平成8年)

供試薬剤	希釈倍数	1葉平均寄生数					防除率	薬害
		散布前	10日後	20日後	30日後	41日後		
コロマイトE	1000	8.84	3.10	0.23	0.86	0.79	78	—
ピラニカWP	1000	0.26	0.02	0.18	0.00	0.00	64	—
無散布	—	4.36	4.53	4.44	0.49	0.10		

散布月日：7/30 調査月日：7/29、8/9、8/19、8/29、9/9

第3表 コロマイト乳剤のナミハダニに対する防除効果 (秋田果試、平成8年)

供試薬剤	希釈倍数	1葉平均寄生数					防除率	薬害
		散布前	10日後	20日後	30日後	41日後		
コロマイトE	1000	2.40	1.82	0.09	1.48	0.02	-54	—
ピラニカWP	1000	1.93	18.84	41.64	4.86	0.19	-3575	—
無散布	—	18.00	15.42	1.13	0.00	0.00		

散布月日：7/30 調査月日：7/29、8/9、8/19、8/29、9/9

第4表 テルスターフロアブルのナミハダニに対する防除効果 (秋田果試、平成7年)

供試薬剤	希釈倍数	1葉平均寄生数				防除率	薬害
		散布前	10日後	22日後	30日後		
テルスターFL	4000	8.20	0.25	7.70	37.60	30	—
ピラニカWP	1000	5.87	20.67	66.87	72.40	-244	—
無散布	—	4.13	12.07	11.07	9.60		

散布月日：7/25 調査月日：7/25、8/4、8/16、8/24

[ 発表文献等 ]

なし